



ユニフォームと一緒に気分も一新。モチベーションも上がりました。

TOPIC
01

看護師は体力勝負なので アシックスのメディカルユニフォームを選びました。

信頼される地域医療、地域包括ケアをめざす東京城東病院。4年に1度行われるユニフォーム更新で、アシックスメディカルユニフォームを採用いただきました。そこで選定を担当した看護部長の皆様にお話を伺いました。採用の決め手となったのは機能性とデザインでした。看護部長の永井さんは「治療の補助から患者様のケアまで、業務が幅広い看護師にとって動きやすさは大切です。だからアシックスというスポーツメーカーに注目しました。アシックスメディカルユニフォームは期待通り、伸縮性が良くて生地がつつぱりにくく、作業がしやすいですね。それから脇の下に通気性を高める工夫がされていて、熱がこもりにくくなっているところうれしいです」と話してくださいました。

TOPIC
03

ユニフォームは単なるウェアではない。 袖を通せば意識が変わります。

「ユニフォームはオン・オフを切り替える大切なもの」と仰るのは伊田さん。「さあ、始めるよ、というスイッチなんです」というお声をいただきました。併設されている介護老人保健施設担当の長谷川さんは、「以前は病院と老健で違うユニフォームを着用していましたが、相互に配置換えがあるので同じものを採用しました。これまでは何となく別の職場という感じがあったのですが、その壁がなくなり垣根のない看護と介護という意識づけにもなって良かったと思います。ユニフォームひとつで意識が変わるものですね」と話してくださいました。この他にも現場ならではの感想をたくさんお聞かせくださいました。皆様の貴重なご意見を参考に、これからもより良い商品をお届けしてまいります。

TOPIC
02

忙しい医療の現場が華やかになって モチベーションも上がりました。

機能性に加えて好評だったのが、豊富なカラーバリエーション。今回、こちらの病院では1人4着、好きな色を選択できるようになりました。お気に入りを着ることでモチベーションを上げたいという狙いです。竹内さんは「現場の忙しい雰囲気の中でも華やかさが加わり、モチベーションも上がったと思います」との感想でした。「ピンクとか明るく綺麗に見えるし、患者様からの評判も上々ですよ」と仰るのは阿部さん。篠井さんは「毎朝、今日の気分はこの色ね、と話をしながら仕事を始められるのが楽しい」とのこと。また細谷さんは「意外な色を選ぶ人もいて、気づかなかったその人の個性を感じます」と話してくださいました。



看護師長 伊田さん 看護師長 細谷さん 副看護師長 阿部さん 看護師長 永井さん 看護師長 篠井さん 看護師長 竹内さん 看護師長 長谷川さん



これからの時代に活躍できる看護師を育てていきたい。

当院では「皆様に信頼される安全な医療の提供に努める」という理念のもとに、健康管理センターや地域包括ケア病棟、附属介護老人保健施設がひとつとなって、予防医療から急性期・慢性期の治療、介護、在宅治療まで幅広い医療を地域密着で行なっています。2025年には団塊世代が後期高齢者になり、高齢化がますます進み病院だけで医療が完結する時代ではなくなりつつあります。私たちは地域と一体となった幅広い医療を提供できる環境を活かし、高齢者ができるだけ自宅で過ごせるように、在宅看護にも対応できる看護師を育てていきたいと考えています。

看護部長 永井純子さん



〒136-0071
東京都江東区亀戸9-13-1
<https://joto.jcho.go.jp/>